

2014年10月29日発

報道関係者各位

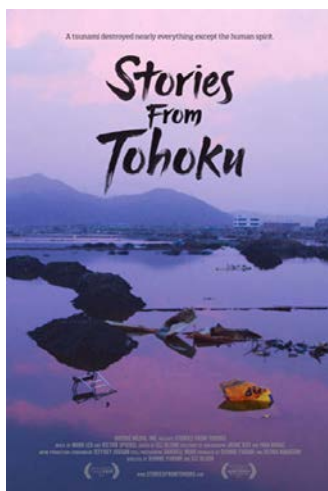
学校法人東北学院 法人事務局広報部広報課  
〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1

電話:022-264-6423 / E-Mail: [koho@tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:koho@tohoku-gakuin.ac.jp)

日系人が見た *After 3.11* ドキュメンタリー  
**Stories From Tohoku**

日系アメリカ人と日本を結ぶ永遠の絆  
上映会 & 監督トークセッション

取材のお願い



入場  
無料

2014年11月15日(土)  
東北学院大学土樋キャンパス押川記念ホール

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

主催 東北学院大学

STORIES FROM TOHOKU

 STORIES FROM TOHOKU

©Bridge Media, Inc.-2014

共催  
後援

東北学院大学地域共生推進機構 / 公益財団法人宮城県国際化協会  
宮城県、



三菱東京UFJ銀行



JAPAN AIRLINES

## 東北学院大学 押川記念ホールでの 上映会&トークセッションについて

◎ 6月10日 『東北の物語／Stories From Tohoku』

--日系アメリカ人と日本を結ぶ永遠の絆』 監督が来学

2011年3月、東北が東日本大震災に見舞われて間もなく、日系アメリカ人三世である2人の女性—サンフランシスコ在住のダイアン・フカミとロサンゼルス在住のデブラ・ナカミは、東北の被災者の方々を支援するために救済金を募った。その結果全米中の日系人からの反響に激励され、それがアイデアの始まりとなり、本ドキュメンタリー映画「東北の物語／Stories From Tohoku」が生まれた。4回にわたる東北地方の訪問を通じて、フカミとナカミの2人は、家族、友人、家屋、そして職を失った生存者たちの精神力、回復力、勇気に深く感銘を受けたという。2人は、現地で出会った人々の驚くべき物語を、また現地の人々と援助に訪れた日系人たちとの間に育まれた絆を、アメリカと日本の聴衆に伝えたいという。多くの日系アメリカ人が日本に対して常に心に抱いている繋がりというものは、日本ではあまり認識されておらず、この繋がり—「絆」が、危難の時に、どのように太平洋を超えて育まれていったのかを伝えなかったと語る。

米国において、「東北の物語／Stories From Tohoku」は、米国内のテレビ局を通じて全国で放映された。サンフランシスコとロサンゼルスでは映画祭で上映され、さらにニューヨークでは今年の6月、試写会が行われた。視聴者からは、東北の被災者の方々を支援する方法についての問い合わせをはじめ、素晴らしい反響が寄せられるようになった。

ダイアン・フカミ監督の友人から、仙台での日本初上映の会場を探しているとの相談を受けた公益財団法人宮城県国際化協会と東北学院大学地域共生推進機構が協力を申し出、今回の初上映となった。

6月10日当日、監督のダイアン・フカミ氏と鈴木タケノ氏が宮城県国際交流協会とともに来学。土樋キャンパスの押川記念ホールを視察し設備の確認を行った。監督によると音響設備、収容人数も申し分なく、ぜひこのホールで上映したいと語り、実現の運びとなった。

**【 詳細につきましては、添付のフライヤーをご確認ください 】**

### 【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

地域共生推進機構 担当:相澤

TEL 022-264-6424

E-mail [kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

広報部広報課 担当:内海

TEL 022-264-6030

## 【 上映会&トークセッション開催の趣旨 】

未曾有の大災害となった東日本大震災の直後から被災地に入り、東北の人々の不屈の強さをつぶさに記録してきたダイアン・フカミ氏ら日系米国人が制作したドキュメンタリーフィルム

### 『東北の物語／

### Stories From Tohoku – 日系アメリカ人と日本を結ぶ永遠の絆』

は、これまでサンフランシスコ、ロスアンゼルス、ニューヨークと米国を中心に上映され多くの人々の感動を呼んできた。

日米の、特に日系人と被災地の絆を綴ったこのフィルムを、被災から3年半を経て初めて被災地の人々に広く観ていただく機会を創出することで、アメリカは東北を忘れてはいないというメッセージを伝える。

そして復興に向かう東北の人々の力強さを日米双方の人々が共に確認しながら、未来へ繋がる永遠の絆を育むことを目的として開催される。



Dianne Fukami



Debra Nakatomi

#### 【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

地域共生推進機構 担当:相澤

TEL 022-264-6424

E-mail [kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

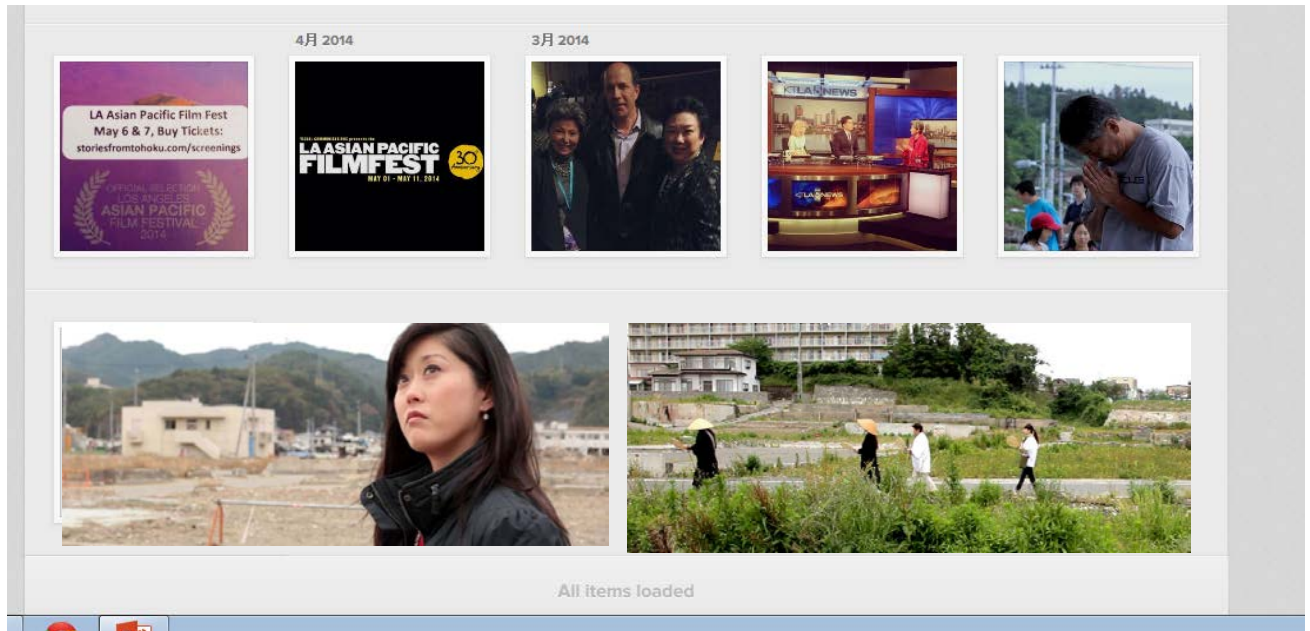
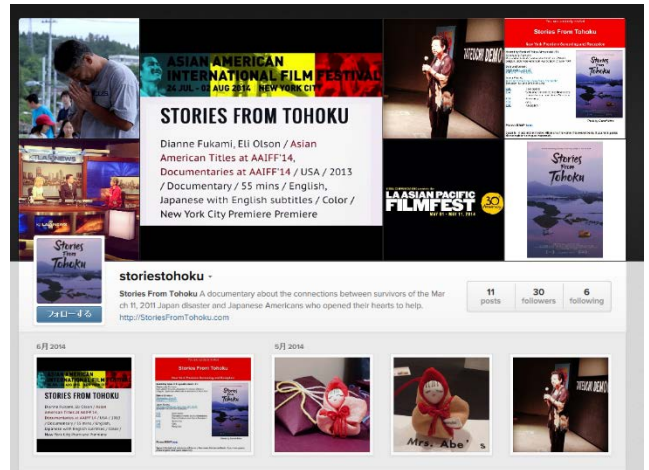
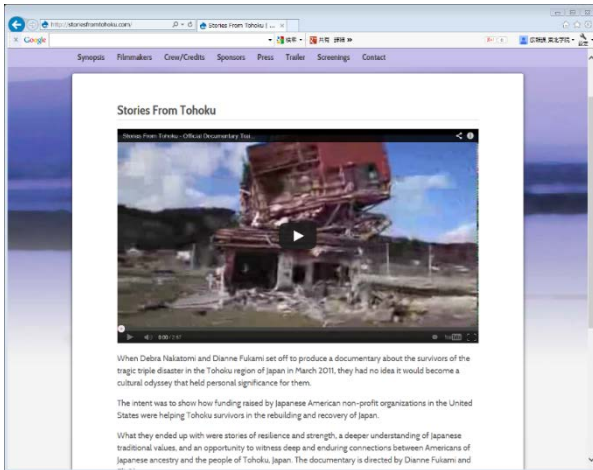
広報部広報課 担当:内海

TEL 022-264-6030



# Stories From Tohoku website

<http://storiesfromtohoku.com/screenings>



## 【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

地域共生推進機構 担当:相澤

E-mail [kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

広報部広報課 担当:内海

TEL 022-264-6424

TEL 022-264-6030

## メディア紹介

### 日系三世が見た震災復興 米で映画上映 7月28日 11時22分



K10053400911\_1407281122\_1407281124.mp4

#### NHK ニュース 2014年7月28日 11時22分 [1:38] 日系三世が見た震災復興 米で映画上映

東日本大震災の復興支援で来日した日系アメリカ人のボランティアと被災者との心の触れ合いを描いたドキュメンタリー映画がアメリカで上映されました。これは、日系三世が監督を務めたドキュメンタリー映画「東北からの物語」で、アジア系アメリカ人が製作した作品を集めたニューヨークの国際映画祭で、27日、上映されました。

作品は東日本大震災の復興ボランティアに訪れた日系アメリカ人の視点から、震災から3年以上たっても続く仮設住宅での暮らしや、街に活気を取り戻そうと復興に向けて粘り強く取り組む人々の思い、さらに日系アメリカ人と被災者との心の触れ合いを描いています。

また、オリンピックの女子フィギュアスケートの金メダリストで、日系アメリカ人のクリスティー・ヤマグチさんも出演しています。観客の1人は「感動的で涙が出てきました。厳しい状況のなかで、日本人が力強く助け合いながら復興を目指す姿がしっかりと描かれた作品です」と話していました。

監督を務めたダイアナ・フカミさんは「日系アメリカ人が今でも被災者のことを思い、決して忘れることなく結びついていることを伝えたいと製作しました。日系アメリカ人は日米関係で今なお重要な役割を担っており、日系アメリカ人と日本とのつながりをより強くしていくことが私たちの世代の責務だと思っています」と話していました。

### 河北新報 夕刊 2014年9月16日 掲載 日系人との絆を映画に

(第三種郵便物認可) 【夕刊月きめ定価1,285円(本体価格1,190円 消費税95円) 1部売

# 3.11 忘れない

海外からの支援

— (4) 完

「警察と並ぶ仮設住宅が、開かれたアジア太平洋映画祭が戦争中に暮らした日系人収容所のように見えた。『我慢』の精神に胸を打たれた」

米サンフランシスコを拠点に活動する日系三世のドキュメンタリー監督、ダイアナ・フカミさんは東日本大震災後に福島を訪れた。以来数度にわたり東北各地を訪れ、復興に粘り強く取り組む人々と日系人ボランティアの姿を映画「東北からの物語」で表現した。

「東北からの物語」で表現された日系三世の思いが、海外からの支援とつながる。開かれたアジア太平洋映画祭などで高く評価され、公共放送で放映された。フカミさんの描く東北の人々がすがすがしく、たくましく、被災者らは何もかも失い将来が見えなくても「みんな乗り切る。」という「一日が大事」と笑顔をみせる。

「『何かせずにはいられない』と東北に駆けつけた日系人へ思いがけない

## 米 国

変化が起こる様子も描いた。助けに行ったりも心が込めてもなされた。だから、お金を届けただけでは帰れない。10年、15年かかる復興を見過げる「僕らの祖先がどこから来たのか、心から誇りに思う」被災地支援に400万円、きつかけはフカミさんが集めた。約4億」が集まった。理事長を務めた日系人団体、寄付が復興にどう役立つかに

## 日系人との絆を映画に

記録しようと映画づくりを始めた。被災者の強靱(きょうじ)な生き方は日本人の予定だ。「観客にまで復興の美徳を感じ圧倒された」の途中と知らず、東北のカミさん。気がつく、映畫のテーマは東北の人々として「忘れない」と約束し、日系人の絆が変わっていくと語り。

「この物語を多くの人に届けたらいい。日本でも映る予定だ。『観客にまで復興の美徳を感じ圧倒された』の途中と知らず、東北のカミさん。気がつく、映畫のテーマは東北の人々として「忘れない」と約束し、日系人の絆が変わっていくと語り。

米サンフランシスコで取材に応じるフカミさんは8月27日

#### 【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

地域共生推進機構 担当: 相澤

E-mail [kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

広報部広報課 担当: 内海

TEL 022-264-6424

TEL 022-264-6030